申1号

第27回定期大会発言に基づく申し入れ(その1) 交渉を行う! 第1回

本日、第27回定期大会発言に基づく申し入れの第1回の交渉を行いました。東日本大震災と原発事故により、多くの組合員が苦しみながらも地域と鉄道の復興に取り組んでいる現実を突きつけ、真摯な回答を求めて交渉を開始しました。

第1項:大震災後の現場社員・状況を踏まえないプレス発表のあり方について

- ・運転再開時期や東日本パス発売等、事前の現場への説明が不十分! 情報を前広に公開し、しっかりと周知すべきだ!
- ・現場の状況を踏まえて再開日を決めたのか。再開日ありきの発表ではないのか!
- ・びゅうプラザの航空端末撤去も事前に説明が無い! 人員削減が目的か?

会社

- ・作業の進捗を踏まえ前広に発信してきたが、情報錯綜やうまく説明しきれないなど反省点は多々あり、現在振り返りをしている。
- ・再開日は現場と綿密に相談して決めた。再開日ありきという事実は絶対に無い。
- ・航空端末は、結果として周知期間が短くなった。現場に迷惑のかからないようにしていく。航空券の販売比率低下などトータルで判断した。人員の削減は行わない。

第2、3項:原発50km圏内への放射能測定器配置と作業基準について

- ・20km圏内(警戒区域)で作業を行わないことが大前提だ!
- ・現場の組合員は大変な不安を感じている。20km圏外の作業は安全なのか? 放射線の積算管理や必要な教育・訓練など、会社の見解と対策を示すべきだ!

会社

- ・20km圏内は国の定める基準に基づいて対応している。
- ・20km圏外は国も安全とは言っていないが制限もない。
- ・自治体等の発表する線量は国の基準を下回っておりその数値だけで対応しても問題ない。
- ・放射能の危険性など、産業医による勉強会を仙台や水戸で開催している。

20km圏内には原則立ち入らないことを確認

第4項:地震や津波に対するマニュアルと今後の見直しについて

- ・これまでのマニュアルは正しかったのか? 見直しは誰がいつ行うのか?
- ・地震で無線・携帯は使えない。指令の指示も聞けない。どう判断するのか?

会社

- ・マニュアルの必要な見直しは行う。時期は未定。
- ・乗務員の感受性を上げることが必要。マニュアルがあっても訓練しなければ意味がない。優れた地方のマニュアルは水平展開していく。

組合員の不安解消のため、継続して議論していきます!!